

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○平均正答率は全国より「+1.2」、県より「+4.0」である。正答率8割以上の児童は全国より「+2.2」、県より「+7.8」である。問題別正答率では、「文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる」では全国より「+10.1」と上回っている。 ●問題別正答率では、「内容のまとまりで段落をつくり、文章の構成を考えることができる」が「-8.4」、「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く」が全国より「-6.9」と下回る。	・読書の時間、音読の時間を増やし、文章を読む機会をつくるようにする。また、段落ごとの要点を読み取ったり、要約したり、要旨をつかんだりする活動を増やしていく。 ・語彙力を増やすために、辞典の活用や学校図書館での学習活動の機会を増やしていく。また「対話タイム」を設け、楽しく話したり聴いたりする取組を積み重ね、自分の考えや思いを伝えようとする意識を高める。
算数	○平均正答率は全国より「+3.0」、県より「+6.0」である。正答率8割以上の児童は全国より「+3.2」、県より「+8.6」である。学習指導要領の領域では「C測定」が全国より「+6.6」、「A数と計算」では全国より「+3.4」と上回っている。 ●問題別正答率では、「台形の意味や性質について理解できる」が「-4.5」、「10%増量の意味を解釈し、増量後が増量前の何倍か」が全国より「-2.3」と下回る。	・面積の公式や割合等の基礎基本をくり返し練習することで習得できるようにする。 ・「話す・聞く」等の対話を大切に学習を継続し、自分の考えをもち、説明・表現する場面を増やしていく。
理科	○学習指導要領の区分・領域では、「地球を柱とする領域」が、全国より「+1.6」県より「+2.9」である。問題別正答率では、「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想、表現できる」が全国より「+4.8」と上回る。 ●平均正答率は全国より「-1.1」、県とは同じである。問題別正答率では、「水の温度による体積の変化」が全国より「-5.6」と下回る。	・実験の方法や道具の名称を丁寧に習得できるようにする。 ・問題解決学習の中で、自分の考えを実験に生かしたり、結果の考察を自分自身の言葉で表現させたりする機会を多くする。

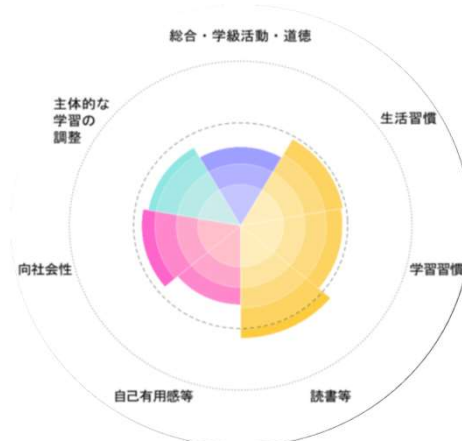
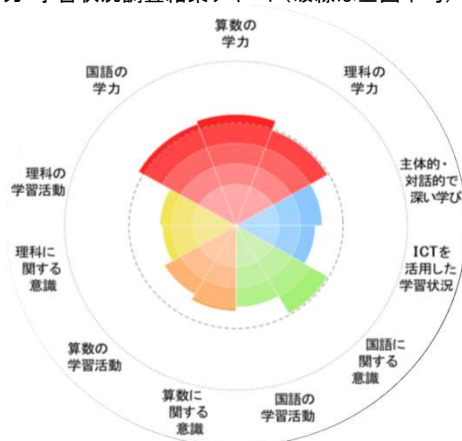
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○肯定的回答で高い割合は、全国より「+4.9」の「朝食を毎日食べていますか」である。また「1日あたりどのくらい読書をしますか」では30分以上読書する割合は全国より「+7.5」である。 ●「PCやタブレット等ICT機器を活用すること」に関しては、「楽しみながら学習を進める」ことは全国と同等だが、「友達と考えを共有する」ことは全国を下回る。	・タブレットなどICT機器を活用する場面を授業の中に積極的に取り入れ、個別学習や協働学習を推進していく。 ・タブレット端末の家庭への持ち帰りを通して、家庭学習で活用を進めていく。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・自分でしっかりと考えることができる児童が多いので、友達との積極的な「学び合い」を取り入れ、自分の考えを広げていくことができるようにする。 ・全校での「対話タイム」を継続していくとともに、協働的な学びの中で自己表現できたり、自分の役割が果たせたりする喜びを感じられるような授業を行っていく。
------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

70

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

